

## あいさつ

青木村

おはようございます。

本日、令和6年第4回青木村議会12月定例会を招集いたしましたところ、全議員の皆さんにご出席をいただき、誠にありがとうございます。日頃より皆さんには、村政の運営にご理解とご協力をいただき、感謝申し上げます。

冒頭、私事ではありますが、病気療養のため長期にわたり、多くの皆様にご迷惑をおかけしましたこと、心からお詫び申し上げます。誠に申しわけございませんでした。

おかげさまで日常生活に支障が無い程に回復をしております。

さて、今年も残すところあとわずかとなりました。

振り返りますと、国内では新年早々、大きな災害、事故が発生しました。元日の能登半島地震、翌日の羽田空港地上衝突事故と、甚大な被害が発生し痛ましい犠牲がありました。心よりお悔やみとお見舞いを申し上げます。

7月には20年ぶりとなる新紙幣の発行、佐渡金山の世界遺産決定、パリオリンピックでの日本人選手の活躍がありました。

9月には復旧途上の能登地方を豪雨が襲い、再び大きな被害をもたらしました。被災された皆様が一日も早く、安全で安心できる生活を取り戻せますよう、復旧・復興を心よりお祈り申し上げます。

また、今年は10月に入っても30℃を越える地域があり、昨年に続き過去最も暑い夏となりました。全国的に農作物や酪農への大きな影響があり、供給不足や価格の高騰が見られました。

村では夏の長雨が幸いし、特産品であります松茸が空前の大豊作となりました。シーズン中、道の駅あおきの販売数は6千パック以上に達し、連日大変な賑わいでした。もうひとつの特産品タチアカネ蕎麦は、残念ながらこの天候が災いし、昨年の4割にも満たない収穫量となってしまいました。

10月28日は、衆議院選挙の投開票日でした。

派閥の裏金事件などで厳しい審判が下り、自民と公明の与党が15年ぶりに過半数を割り込みました。新しい国会には、目の前の暮らしへの対応等と、未来を見据えたしっかりした戦略を持った政策に向けての熟議の実現を要請します。

11月5日に実施されたアメリカ大統領選挙では、共和党のトランプ氏が勝利しました。

地政学的リスクも高まる中、我が国としても財政・外交・金融の各政策を注視していく必要があります。

世界的に起きている紛争や気象変動、災害の頻発などが私たちの生活に及ぼす影響も大きく、自分たちの自治体の課題は何か、保有している資源は何か、それを活用して財源にできないか良く考えていく必要があります。幸い青木村は、きれいな水や空気、山林、素朴ですが安全な食材など、自然の恵み豊かな地域であります。目の前の暮らしに対応しつつ、長期的な展望を見据えて、自らの身は自らで守るという姿勢で、戦略を描いてまいります。

国内の経済動向は、内閣府が11月26日(火)に発表した月例経済報告によりますと、『景気は、一部に足踏みが残るものの緩やかに回復している。』とのことです。

さて、予算編成の時期となりました。

国の令和7年度予算は、[「経済財政運営と改革の基本方針2024」(令和6年6月21日閣議決定。以下「基本方針2024」という。)に基づき、経済・財政一体改革を推進する。ただし、重要な政策の選択肢をせばめることがあってはならない。歳出全般にわたり、施策の優先順位を洗い直し、無駄を徹底して排除しつつ、予算の中身を大胆に重点化する。]としております。

県の予算編成方針のポイントは、[重点項目として、1. 人口問題への対応、2. ゼロカーボンの加速化、3. 地震防災対策の抜本的な強化等が挙げられる。また、行財政改革の取組みの中で、公共事業などは「造る」から「直す」ことを重点化する。]としております。

村でもこれから、来年度の予算編成作業に入ります。村民の皆さんが将来に夢を

持てる先々を見通した施策を行うため、スピード感を持って、年々増える社会保障費への対応を図りながら、単に金額だけでなく内容が充実した予算編成を行い、元気で豊かな村づくり、日本一住み続けたい村づくりに取り組んでまいります。

厳しい財政状況の中ではありますが、創意と工夫で最大の効果が得られるよう、役場職員の英知を結集してまいります。

次に、先の9月定例会開会後から本日までの、主な行事等の報告をさせていただきます。

9月18日(水)、「高齢者祝賀事業」による訪問を行いました。

今回、米寿34名、白寿5名、百歳4名、101歳3名、103歳1名、104歳1名、111歳1名の方々がご長寿のお祝いの日を迎えられました。これからもお元気でお過ごしいただきたいと思えます。

9月27日(金)、28日(土)には、中学校の「こまゆみ祭」が行われました。

一人一人の生徒が輝くことをテーマに、学年の活動発表やアイリスセミナーの発表、合唱発表、義民太鼓など、一人が何度も登場する内容になっていました。

今年は村松西組の神楽の発表があり、地域との連携も復活できました。ミュージックフェスティバルでの全校生徒による最後の「大地讃頌(ダイチサンショウ)」は、体育館をふるわすような圧巻の合唱で、中学生の意識の高さが伝わってきました。

10月5日(土)には保育園の運動会が行われました。

今年はプログラム名称を『一人一人の子どもたちが楽しむ運動会』として、「あおきっ子運動会」へ変更しました。まさに一人一人が主役となり、全園児がスマイルでやりきった、笑顔はじける運動会となりました。

10月17日(木)は、小学校の音楽会が行われました。

全校の児童が歌いながら入場したり退場したりする工夫で、音楽会全体が途切れのない表現の場になっていました。各学年の発表も、2年生のスイミーのオペレッタ、3年生の飼っているモルモットをテーマにした創作劇、6年生の体を動かしたジャズの演奏など、それぞれが工夫されており、音楽会にかける意気込みが見事でした。

11月5日(火)、6日(水)には、小学校6年生の東京への修学旅行が行われました。

今年の6年生は、渋谷の東急の皆さんに絵入りのリンゴを届けたり、青木村をPRするチラシを9種類も作成して、駅構内に展示してもらったりするなど、自分たちから青木村を発信しようとする積極的な取り組みを行っていました。

11月16日(土)、17日(日)の2日間、「青木村産業祭」「タチアカネ新そばまつり」が、天候にも恵まれ盛大に開催されました。

今年は50もの団体・グループに参加していただき、テレビ・ラジオの生中継などもあり、大勢の皆さんにご来場いただきました。ステージではカラオケ・バトル、子どものダンス、ビンゴ大会なども行われ、大いに盛り上がりました。

次に、今議会に上程しました令和6年度12月補正予算等の概要について申し上げます。

#### 令和6年10月専決補正予算（令和6年10月1日付専決処分）の概要について

一般会計 第3号専決補正予算は、既に本年度予算化している「自治体システム標準化に伴う電算機器設定委託料」が、事業の延期のため、

令和6年度から令和7年度に渡って年度をまたぐ契約となったため、債務負担行為の補正をさせていただきました。

#### 令和6年12月補正予算の概要について

一般会計 第4号補正予算は、歳入歳出それぞれ3,679万円を追加し、総額を44億2,589万円とします。

令和6年12月補正予算における一般会計の主な事業は次のとおりです。

## 歳入

番号	目	説明	計上額
①	国庫委託金（総務費）	衆議院選挙執行委託金	560万7千円増
②	一般寄付金	青木運輸倉庫様より 100万円	99万9千円増
③	繰越金	前年度繰越金	2,034万3千円増
④	雑入	上田広域ふるさと基金出資金返還金	252万4千円増
		移転補償料 (国道歩道工事村有看板移転補償)	600万円増

## 歳出

番号	目	節	説明	計上額
①	企画費	委託料	地域防災計画更新委託料	273万9千円増
②	情報通信サービス事業費	委託料	高機能化促進事業関連（庁舎内ビジネスフォン連携調査）委託料	390万5千円増
③	運行管理費	負担金補助及び交付金	地域路線バス施設（地下燃料タンク）改修補助金	100万円増
④	衆議院議員選挙費		令和6年10月27日執行分	669万円増
⑤	社会福祉総務費	積立金	福祉事業基金積立金	252万4千円増
⑥	農業振興費	委託料	入奈良本牧場 支障木処理、農地整備	427万8千円増
⑦	道路新設改良費	工事請負費	国道歩道工事村有看板移転工事	600万増
⑧	中学校学校管理費	備品購入費	令和7年度教科書採択に伴う教師用指導書購入	374万円増

以上、補正予算の内容を説明させていただきました。

詳細につきましては、教育長並びに担当課長からご説明致しますので、ご審議の上、ご議決いただきますようお願い申し上げます。

結びに、私事でございますが、来年4月に予定されております村長選挙について申し上げます。

私が高校を卒業する時代、農家の長男は家を継ぐのが一般的で、多くの同級生もそうでした。そして、地区の事業や行事、消防団活動などの社会活動をするのがあたり前の習いでした。私は農家の長男でありながら長い間それをしてこなかったこと、更に父・母は100才近くまで生き、村には長い間介護等で大変お世話になったこと、この二つの後ろめたさは生涯つきまっております。

遅ればせながら、埼玉での退職後村に帰り、故郷へのご恩返しをと思っていたところ、村長という大きなチャンスをいただきましたので、勇んでこの職に就かせていただいております。

12年前、8年前、そして4年前、「元気で豊かな村づくり」「青木村がもっと輝き、日本一住みたい村へ」を選挙公約として村長選に立候補し、その結果、多くの皆様のご支持をいただき、当選させていただきました。我が人生、最も感激した出来事であります。この11年7ヶ月、当面の課題解決と中・長期的な展望との中で、村の財政が厳しい折、国、県、そして民間の力を借りての村づくりに全力投球してまいりました。果たして、村民の皆さんや議員の皆さんからどのような評価をいただけるか、心配なところであります。

この4年間、人に寄り添った村政を心がけてまいりました。最も苦労したのは、世界中を恐怖の渦に巻き込んだ新型コロナウイルス感染症によるパンデミックへの対応でした。終わりが見えない3年間の戦いでしたが、村民の皆さんの落ち着いた行動により、何とか乗り切ることができました。

国内では様々な経済活動等が縮小していく中で、保育園、小・中学校の給食費の無償化、18才以下、ひとり親家庭の医療費の完全無料化など、村民の皆さんへ公平で平等な支援に努めてまいりました。

長年の懸案でありました国道143号青木峠新トンネルは、バイパスとして令和2年度、県において事業着手となり、着工に向けて推進しております。企業誘致も実を結び、東京証券取引所プライム企業の竹内製作所が昨年9月から操業を開始し、

税込、雇用、若者定住の面で効果を上げております。

五島慶太翁顕彰活動については、五島慶太未来創造館の入館者数が累計2万6千人、東急グループが生家跡地に建設した慶太塾の幹部社員による活用、タチアカネ蕎麦等農産物の東京での販売など、軌道に乗り、目に見えて成果が出てきております。

移住者数は、平成28年に統計を取り始めてからの累計は182家族、367人となりました。合計特殊出生率は5か年平均1.84（全国平均1.26、長野県平均1.43）となりました。

当然のことではありますが、私は4年を一区切りとして、この職を務めさせていただいております。今回は、3期も務めさせていただいたことから、世代交代を考えたところではありますが、多くの皆さんから次期のご要請をいただいたこともあり、「人に優しい村づくり」を旗印に、次期村長選に立候補させていただきたく決意を固めたところであります。

幸い健康に恵まれ気力も満ちております事から、是非村民の皆さんから次期村長としての負託をいただきたいと考えております。

どうぞよろしく願いいたします。